

<部会研究>

# 児童文化財に関する研究

## 小学校の学校劇に関する実態調査

<部会長>研究第8部

<部会員>研究第8部

高橋 種 昭

星 美智子・湯川 礼子・高城義太郎

落 合 聡三郎 (児童劇作家)

椎 崎 篤 (世田谷区緑丘中学校)

佐久間 賢 介 (豊島区駒込小学校)

### I 目 的

本児童文化財研究部会としては、初年度に子どもの精神発達と文化財についての研究をとりあげ、その後、児童の観劇反応(1)、(2)、児童館における文化財利用の活動の研究を行ない、昨年度は子どもの音楽接触に関する実態調査をおこなった。今年度はこれまで触れなかった学校文化をとりあげることとした。学校の教師および生徒を対象に、質問紙法によって、学校劇への意識を中心に学校劇の実態を把握することが本研究の目的である。

### II 方 法

#### 1. 対 象

学校劇は各学校によって差が大きいので、今回は東京

表1 調査対象 児童

学校名	男	女	不明	計	学校名	男	女	不明	計
仰 駒	9	14	—	23	文 成	62	45	—	107
高 達	77	65	1	143	高 成	49	46	—	95
巢 鴨	66	50	—	116	雑 司	26	26	—	52
清 和	59	60	2	121	谷 出	37	25	—	62
時 習	40	45	—	85	白 崎	61	47	—	108
西 鴨	49	42	—	91	目 長	36	34	—	70
豊 塚	51	39	—	90	要 推	48	56	—	104
大 朝	57	52	1	110	富 名	71	71	—	138
池 袋	53	57	—	110	士 見	51	54	—	105
池 袋	57	57	2	116	早 台	68	69	1	138
池 袋	46	51	2	99	松 川	71	69	3	143
池 袋	41	59	—	100	千 成	27	25	—	52
池 袋	52	55	—	107	大 成	55	56	2	113
大 成	34	46	—	80	合 計	1349	1315	14	2678

成 城 学 園	男	女	不 明	計
3 年 年	18	19	—	37
4 年 年	19	18	—	37
6 年 年	15	18	—	33
合 計	52	55	—	107

都のひとつの地区、豊島区に集中して区立全校を対象とした。また、学校劇の創始校であり学校劇に伝統をもつ成城学園小学校を対照群として対象とした。対象児は小学校4年(成城は4年のほかに3年、6年各1クラス)、教師は受持学年に関係なく全員を対象とした。回収率は学校数93%、生徒数92%、教師71%である。表1は対象児、表2は対象者(教師)である。

#### 2. 調 査 項 目

(1) 生徒対象：学校劇への参加、学校劇の内容、学校劇についての感想など9項目にわけて質問した(附1)。

(2) 教師対象：教師に対しては、学校劇の意義、効果、子どもたちの受けとめ方、教師自身の学校劇へのかかり方など5項目について意見をもとめた(附2)。

#### 3. 調 査 日 時

1981年6月～7月、調査項目の柱、対象年齢などの検討をし、9～10月質問紙作成、調査対象の決定、12月に

表2 調査対象 教師

学校名	男	女	不明	計	学校名	男	女	不明	計
仰 駒	—	—	—	0	文 成	6	7	—	13
高 達	8	6	—	16	高 成	7	10	—	17
巢 鴨	4	5	—	9	雑 司	5	7	—	12
清 和	3	10	—	14	谷 出	4	2	—	6
時 習	7	8	—	15	白 崎	7	10	—	17
西 鴨	6	6	—	15	目 長	7	9	1	17
豊 塚	6	6	—	18	要 推	8	9	—	18
大 朝	7	5	—	20	富 名	7	13	—	20
池 袋	6	6	—	18	士 見	3	3	—	6
池 袋	7	5	—	20	早 台	5	5	—	10
池 袋	6	7	—	13	松 川	4	6	—	10
池 袋	8	9	—	17	千 成	4	6	—	10
池 袋	4	7	—	11	大 成	7	13	2	22
池 袋	4	5	—	9	合 計	148	205	12	365
池 袋	4	5	—	9					
大 成	6	8	—	14					

学 校 名	男	女	不 明	計
成 城	17	2	1	20

対象校への調査依頼、1982年1月に調査を実施した。

III 結 果

1. 学校劇と児童

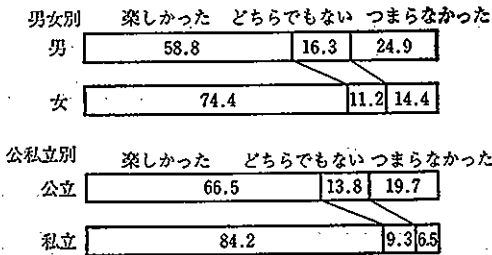
1) 学校劇の経験について

まず、子どもたちの学校劇の経験——出演と観劇とについて調べた。学校劇をしたことがあるか、どうかは表3に示すように、公立90%強、成城99%が学校劇に参加している。公立の学校劇をしたことのないものは、転校、病欠の他、セリフが覚えられない、人前に出るのがいやといった理由があげられ、他にジャンケンに負けて出られなかった、選ばれないなどの答えもみられる。学校劇に参加しての感想では、「楽しかった」というものが多い(図1)。男子と女子を比較すると、女子74.4%

表3 学校劇をしたことがある

	公立小		
	男	女	計
ある	1233 (91.4)	1191 (90.6)	2424 (91.0)
ない	114 (8.5)	122 (9.3)	236 (8.9)
無答	2 (0.1)	2 (0.1)	4 (0.1)
計	1349 (100)	1315 (100)	2664 (100)
	成城小		
	男	女	計
ある	52 (100)	54 (98.2)	106 (99.1)
ない	0 (0)	1 (1.8)	1 (0.9)
無答	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	52 (100)	55 (100)	107 (100)

図1 学校劇をしての感想

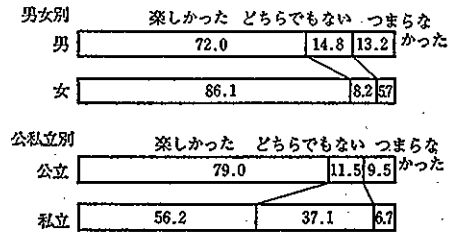


男子58.8%と女子の方が楽しさを感じているものが多い。公立校全体と私立(成城)とを比べると、楽しかった子は私立84.2%に対して公立66.5%であり、成城の方が約20%も多くなっている。つぎに、学校劇を観ることについての結果をみても。学校劇を観る経験をもたないものは表4にみるように公私立ともに2~3%と僅かであり、これは転校間もない子と病欠の子である。学校劇をみての感想では、学校劇出演と同じように女の子の方が楽しかったというものが多く(男子72.0%女子86.1%)、公立と私立とを比較すると公立の方が楽しかったとするものが多い(図2)。つまり、私立(成城)では、演

表4 学校劇をみたことがある

	公立		
	男	女	計
ある	1302 (96.5)	1289 (98.0)	2591 (97.3)
ない	40 (3.0)	24 (1.8)	64 (2.4)
無答	7 (0.5)	2 (0.2)	9 (0.3)
計	1349 (100)	1315 (100)	2664 (100)
	私立		
	男	女	計
ある	49 (94.2)	54 (98.2)	103 (96.3)
ない	3 (5.8)	1 (1.8)	4 (3.7)
無答	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	52 (100)	55 (100)	107 (100)

図2 学校劇をみた感想



ずることを楽しみ、観ることでは「どちらでもない」という答が増え、演ずる時9.3%であったものが観ることでは37.1%と4倍以上になっている。公立では男女ともに演ずるより観る方が楽しかったとするものが多い、ほぼ男子15%、女子12%と増加している。

つぎに、学校劇に参加して楽しかった理由、つまらなかった理由の上位にあげられた主なものをランダムに選んだ5校についてあげてみる。

<学校劇をして楽しかった理由>

- | (男)          | 人    | (女)           | 人    |
|--------------|------|---------------|------|
| ①皆と協力できた     | (26) | ①主役になれた、      |      |
|              |      | いい役だった        | (31) |
| ②主役になれた、     |      | ②皆と協力できた      | (22) |
| いい役だった       | (23) |               |      |
| ③いい劇、面白い劇だった | (10) | ③劇が好き、楽しい、気持ち | (13) |
|              |      | ちがよい          |      |
| ④観る人が喜んでくれた  | (6)  | ④歌ったり、踊ったりした  | (6)  |
|              |      |               |      |
| ⑤うまくできた      | (5)  | ⑤うまくできた       | (5)  |
| ⑥歌ったり、踊ったりした | (4)  | ⑥みる人が喜んでくれた   | (3)  |

<学校劇をしてつまらなかった理由>

- | (男)            | 人    | (女)            | 人    |
|----------------|------|----------------|------|
| ①わき役、端役、変な役だった | (23) | ①わき役、端役、変な役だった | (22) |

- ②歌の役だった (10) ②歌の役だった (5)
- ③大へんだから、いやだか (7) ③失敗した、うまくできな  
ら (4)
- ④内容がつまらない (3) ④内容がつまらない (4)
- ⑤先生に叱られた、先生が  
ひいきする (3)

以上のように、自分が思うような役につくつかない  
かが子どもたちにとって一番の関心事である。皆と一緒に  
することも学校劇の楽しさとなっている(男①位、女  
②位)。女子では劇が好きで演ずること自体を楽しんでい  
るものが多い。なかには、劇で他の人物になれる(女)、  
観る人の心に残るような気がする(女)というような演  
劇の本質に触れる答えもみられる。

また、年齢的な発達をみるために、成城小学校の3年  
4年、6年について学校劇の楽しかった理由、つまらな  
かった理由を比較してみる。

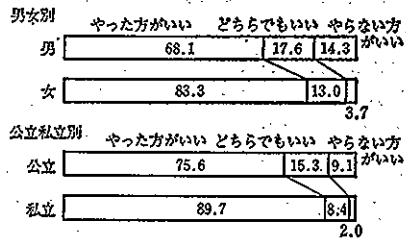
ここでみるように、3年生は自分自身が「よい役」  
「よくできた」「舞台にのれる」などの楽しさが殆んど  
である。「セリフがよい」「音楽がよい」は、個人レベ  
ルなのか、劇の内容への評価なのかかわからないが、自分  
自身から距離をおいたわずかの答えである。4年生では  
「いい役だった」が圧倒的に多いが、「いい劇だった」  
「皆と協力できた」が2位にあげられている。6年にな  
ると、「皆と協力できた」が、他の理由をひきはなして  
多くなっている。「いい役」「うまく出来た」など自分  
のことに関したものは少なくなっている。〈つまらなか

った理由〉をみても、3年、4年は、自分の出演につい  
てのみあげられている。なお、6年生は全員、「楽しか  
った」と答え、「どちらでもない」「つまらなかった」  
ものは皆無であった。こうしてみると、学年による差が  
かなり著しく、3年生は学校劇を自分の出演にこだわ  
ってとらえているものが多く、年齢がすすむにつれ、クラ  
ス全体、劇の内容などに関心を強くしていくのがわかる

2) 学校劇の評価

学校劇について、学校劇をした方がよいとするもの、  
しない方がよいとするものをみると、学校劇を肯定する  
ものの方が圧倒的に多い(図3)。男女差をみると、女子  
の方に肯定するものが多く(女83.3%、男68.1%)、公立  
・私立別では公立より私立の方が肯定が高くなっている  
(私立89.7%、公立75.6%)。

図3 学校で劇をすることについて



学校劇をした方がよい理由を、成城の6年と4年を比  
較しながらみると、つぎのようになる。

〈楽しかった理由〉

3年	4年	6年
①いい役だった 3	①いい役だった 13	①皆と協力できた 23
②うまくできた 2	②いい劇だった 3	②いい劇だった 3
③初めてだから 2	③皆と協力できた 3	③いい役だった 2
④大きな声が出せる 1	④歌ったり踊ったりした 2	④うまくできた 2
⑤舞台にのれる 1	⑤練習の時お菓子もらった 2	⑤皆が真剣にみてる 1
⑥皆の前でやるから 1	⑥劇のことをいろいろ学んだ 1	⑥劇に出る緊張 1
⑦衣裳があるから 1	⑦いろいろの役ができる 1	⑦思い出に残る 1
⑧セリフが面白い 1	⑧皆がみてる 1	
⑨音楽がよかった 1	⑨衣裳が面白い 1	
	⑩劇が好き 1	

〈つまらなかった理由〉

3年	4年	6年
①セリフが少なかった 4	①目立つ役でなかった 3	なし
②欠席して出られなかった 1	②練習のとき叱られた 2	
	③自分の出番でない時 1	
	④劇に出るのがきらい 1	

(4年)	(6年)
楽しい、面白い 18	楽しい、面白い 11
勉強になる、ためになる 6	皆の心がひとつになる 10
みる人も演ずる人も楽しめる 5	思い出になる行事 5
皆にみせることができる 4	勉強になる、ためになる 4
劇に出るとかっこいい 2	みる人も演じる人も楽しめる 2
劇に出た人の顔を覚えられる 1	燃える心がでる 1
勉強しなくていいから 1	

4年生は、学校劇を「楽しい・面白いから」「勉強になる」「皆にみせることができる」他、全般に自分の出演を中心に学校劇をしたいとしている。6年生になると皆と一緒にできる楽しさ、チームワークがよくなるなど4年生にみられない答えが多くなる。高学年になると劇の一つの特質である集団で創りあげる芸術を感じる事ができるのであろう。

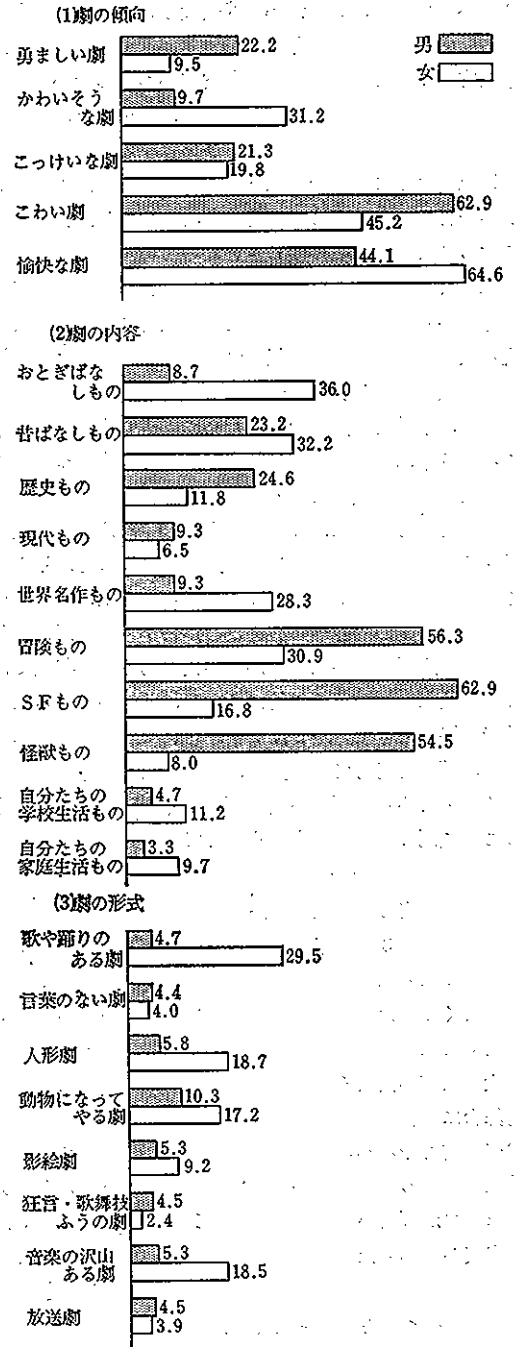
3) 子どもの好む学校劇

子どもがどんな劇が好きなのか、(1)劇の傾向5、(2)劇の内容10、(3)劇の形式8の計23について、好きな劇5つを選択させた。その結果をみると男子と女子の差が著し

表5 子どもの好む劇(公私立別) ※P<.05

	公立	私立
(1) 劇の傾向		
勇ましいげき	423 (15.9)	7 (18.9)
かわいそうなげき	541 (20.3)	5 (13.5)
こっけいなげき	548 (20.6)	16 (56.8)※
こわいげき	1444 (54.2)	14 (37.8)※
ゆかいなげき	1445 (54.2)	17 (45.9)
(2) 劇の内容		
おとぎばなしもの	590 (22.1)	0 (00.0)※
昔ばなしもの	735 (27.6)	3 (8.1)※
歴史もの	487 (18.3)	4 (10.8)
現代もの	210 (7.9)	5 (13.5)
世界名作もの	508 (19.1)	0 (00.0)※
冒険もの	1164 (43.7)	14 (37.8)
SFもの	1069 (40.1)	8 (21.6)※
怪獣もの	840 (31.5)	3 (8.1)※
自分たちの学校生活もの	211 (7.9)	6 (16.2)※
自分たちの家庭生活もの	172 (6.5)	2 (5.4)
(3) 劇の形式		
歌やおどりのあるげき	451 (16.9)	9 (24.3)
ことばのないげき	112 (4.2)	1 (2.7)
人形げき	324 (12.2)	1 (2.7)
動物になってやるげき	371 (13.9)	4 (10.8)
かげ絵げき	193 (7.2)	0 (00.0)
狂言、歌舞伎ふうのげき	92 (3.5)	4 (10.8)※
音楽のたぐいあるげき	314 (11.8)	9 (24.3)※
放送げき	112 (4.2)	1 (2.7)
計	2664	37

図4 子どもの好む劇



くあらわれている。各項の男女差を%で示したのが図4の(1)(2)(3)である。男子はこわい劇、愉快な劇、勇ましい劇を好み、女子は愉快な劇、こわい劇、かわいそうな劇を好んでいる。勇ましい劇は女子9.5%に対し男子22.2

%と男子が2倍以上、かわいそうな劇は、逆に男子 9.7%に対し女子31.2%と3倍強になり、男女差が大きい。劇の内容から男女差をみると、男子はSFもの、冒険もの、怪獣ものが女子より著しく多く、それぞれ半ば以上の男子に好まれている。女子はおとぎばなし、昔ばなし、冒険もの、世界名作の順に好まれ、冒険ものを除いては、男子よりはるかに多くのものを好んでいることが明らかである。

劇の形式に関心を示す男子は少なく、「動物になってやる劇」がもっとも多くて10%強である。女子は「歌や踊りのあるもの」「音楽の多いもの」「人形げき」の形を好み男子とのちがいを明らかにしている。

以上は、公立小学校の男女差であるが、劇の好みは公立小学校と成城小学校でも違いがみられる。公立の男女計と成城小学校4年(劇の好みは学年差があるので公立と同学年のみをとりあげる)男女計を比べてみると、表5のように有意差のあるものが、全23項目のうち、10項目と多くなっている。公立小の方に多く好まれる劇は、こわい劇、おとぎばなし、昔ばなし、世界名作、怪獣ものであり、成城小学校の方に多く好まれるものは、こっけいな劇、自分たちの学校生活の劇、狂言・歌舞伎ふうの劇、音楽劇である。これで見ると、成城小の児童は創作劇を好んでいるといえる。

4) 学校劇への参加のしかた

(1) クラス全員で参加する劇について

学校劇はクラス全員が参加した方がよいと思う子がなかば以上を占めているが(図5)、男女別では女子の方に多く、公私立別では私立の方が多くなっている。どちら

図5 クラス全員参加の劇がよいか

男女別	はい			どちらでもない			いいえ		
	はい	どちらでもない	いいえ	はい	どちらでもない	いいえ	はい	どちらでもない	いいえ
男	53.8	32.3	13.9						
女	68.1	22.5	9.4						
公私立別	はい			どちらでもない			いいえ		
公立	60.8	27.5	11.7						
私立	77.6	16.8	5.6						

表6 学校劇への参加

	公立(4年)			私立(4年)		
	男	女	計	男	女	計
(1)主役になってほしい	305 (25.1)	254 (21.0)	559 (23.0)	4 (21.1)	6 (33.3)	10 (27.0)
(2)主役でなくてもげきにほしい	400 (32.9)	656 (54.2)	1056 (43.5)	10 (52.6)	11 (61.1)	21 (56.8)
(3)舞台装置や照明などで参加したい	279 (22.9)	141 (11.7)	420 (17.3)	5 (26.3)	1 (5.6)	6 (16.2)
(4)舞台にでるよりみる方がいい	190 (15.6)	133 (11.0)	323 (13.3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
(5)参加したくない	42 (3.5)	26 (2.1)	68 (2.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

でもよいという答えも少なくない。全員参加劇を反対するのは全体で一割ぐらいになっている。全員参加の劇がよいとする理由としては、「出られない人がかわいそう」「不公平がない」「全員ですとクラスのまとまりがよくなる」などであり、少数意見であるが反対の理由は「まとまりなくなる」「ごちゃごちゃする」「自分があまり出られない」などである。

(2) 学校劇に参加したいか

学校劇に参加したいかどうか、また参加するのにどのような形で参加したいかを尋ねた。表6に示すように「主役に出たい」のが公立23%、私立27%、「主役でなくても出たい」もの公立43.5%、私立56.8%であり、「舞台装置や照明に参加したい」ものは公私立ともに16~17%である。「舞台に出るよりみる方がいい」「参加したくない」は、公立だけにみられ、私立では皆無である。「主役でなくても出たい」は女子の方に多く、「照明や舞台装置」は男子の方に多い。これは公私立ともにいえることである。

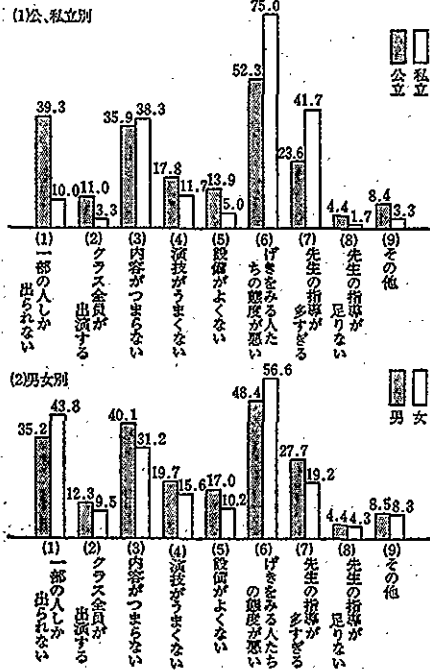
5) 学校劇についての不満

学校劇についての不満の有無をみると、表7のようになる。公私立ともに不満をもつものが約60%で、なかば以上のものが何らかの不満をもっている。不満の内容は図6の示す選択肢(9)について3個までチェックさせた。

表7 学校劇への不満

	公立			私立		
	男	女	計	男	女	計
ある	857 (63.5)	767 (58.3)	1624 (61.0)	28 (53.8)	32 (58.2)	60 (56.1)
ない	475 (35.2)	573 (43.6)	1048 (38.0)	24 (46.2)	23 (41.8)	47 (43.9)
無回答	17 (1.3)	11 (0.8)	28 (1.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	1349 (100)	1315 (100)	2664 (100)	52 (100)	55 (100)	107 (100)

図6 学校劇への不満



公私立ともに「劇をみる人の態度が悪い」が不満の1位となっている。公立では「一部の人しか出られない」が2位で約40%、私立では「内容がつまらない」が2位で38.3%になっている。私立は「劇をみる人の態度が悪い」と「内容がつまらない」に二分されるが、公立では「先生の指導が多すぎる」23.6%、「設備がよくない」13.9%、「クラス全員が出演する」11.0%となっている。成城小では、公立よりも、劇の指導、設備が適切であることがわかる(図6)。男女別では、女子の方が多いのは「劇をみる人の態度が悪い」「一部の人しか出られない」であり、他は男子の方が多くなっている。

6) 学校劇について先生への要望

学校劇で先生にしてもらいたいことが、あるかないか

表9 先生への要望

	公立			私立		
	男	女	計	男	女	計
(1) もっとげきのやり方を教えてもらいたい	235 (27.5)	236 (29.4)	471 (28.4)	6 (25.0)	6 (24.0)	12 (24.5)
(2) 自分たちにまかせてもらいたい	140 (16.4)	74 (9.2)	214 (12.9)	4 (16.7)	2 (8.0)	6 (12.2)
(3) 困ったときだけ教えてもらいたい	280 (32.7)	238 (29.6)	518 (31.2)	5 (20.8)	6 (24.0)	11 (22.4)
(4) もっと時間をかけてもらいたい	286 (33.4)	349 (43.4)	635 (38.3)	9 (37.5)	12 (48.0)	21 (42.9)
(5) その他	44 (5.1)	40 (5.0)	84 (5.1)	2 (8.3)	3 (12.0)	5 (10.2)
無答	6 (0.7)	2 (0.2)	8 (0.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	856	804	1660	24	25	49

表8 先生への要望の有無

	公立		
	男	女	計
ある	856 (63.5)	804 (61.1)	1660 (62.3)
ない	452 (33.5)	494 (37.6)	946 (35.5)
無答	41 (3.0)	17 (1.3)	58 (2.2)
計	1349 (100)	1315 (100)	2664 (100)
	私立		
	男	女	計
ある	24 (46.2)	25 (45.5)	49 (45.8)
ない	28 (53.8)	27 (49.0)	55 (51.4)
無答	0 (0)	3 (5.5)	3 (2.8)
計	52 (100)	55 (100)	107 (100)

を質ねたが、公立では約60%が「ある」と答え、私立では約45%が「ある」と答え、「ない」が50%強で、公立の方が要望が多くなっている(表8)。先生への要望を具体的にみると、表9になる。「もっと時間をかけてもらいたい」が公私立ともに1位で40%内外となり、つぎに「もっと劇のやり方を教えてほしい」「困った時だけ教えてもらいたい」がそれぞれ2~3位になっている。「自分たちにまかせてもらいたい」は公私立ともに12%強であり、小学生は教師にまだまだ依存的であることがわかる。

7) 学校劇について思うこと

最後に、学校劇について思うことを自由記述で回答をもとめた。さまざまな記述がみられたが、〈内容〉〈回数・時間〉〈舞台・衣裳〉〈役〉〈演技方・観客〉に分けて答えを整理した。その結果の主なもののはつぎのようである。

〈内容について〉	男	女	計
面白いもの、楽しいものをしてほしい	77	64	141
SFものをしてほしい	26	4	30
もっと長いものをしてほしい	10	12	22

高橋他：小学校の学校劇に関する実態調査

自分たちで作ったものをしたい	6	14	20
恐ろしいものをしたい	7	11	18
悲しいものをしたい	1	14	15
怪獣ものをしたい	13	1	14
冒険ものをしたい	6	4	10
迫力のあるものをしたい	7	1	8
歴史ものをしたい	2	3	5
昔ばなしをしたい	1	2	3
刑事ものをしたい	1	1	2
もっといい劇をしたい	12	10	22

＜回数・時間・練習について＞

もっと沢山したい	52	88	140
練習多すぎる、遊ぶ時間がない	9	2	11
練習時間が少ない	2	6	8
見る時間が短い	4	4	8

＜舞台・衣裳について＞

公会堂など学校外でしたい	2	10	12
TVに出たい	0	3	3
セットをよくしてほしい（大道具・小道具を含む）	5	7	12
設備をよくしてほしい（照明など）	6	4	10
舞台を広くしてほしい	4	3	7
衣裳を工夫したい、よくしたい	3	6	9
学校で衣裳を用意してほしい	1	4	5

＜役について＞

全員出演できるようにしたい	18	36	54
主役になりたい	14	6	20
劇に出たい	6	7	13
セリフの多い役にしてほしい	7	6	13
全員主役がいい	8	3	11
役を公平にしてほしい	13	11	24
先生がきめないで自分達できめたい	3	2	5
主役になれない人、出られない人がかわいそう	2	1	3
困った時先生に教えてもらいたい	2	5	7
先生に出てもらいたい	1	4	5
学校全体でやりたい	3	6	9
グループでやりたい	1	2	3
先生たちだけでやってほしい	0	4	4

＜演じ方、観客について＞

大きな声でやればよい、声が小さい	14	30	44
演技うまかった	10	6	16
下手だと思ふ、わざとらしい	5	3	8
観ている人がうるさい、態度が悪い	13	30	43
拍手がきて嬉しかった、笑ってくれた	2	6	8

拍手が少ない 0 7 7  
よく見えない、椅子に座ってみたい 2 3 5

この他、「面白かった」「楽しかった」とのべたもの63名、「おもしろくない」が2名である。他にここにまとめられない1名ずつの答えは省略する。

以上みてきたように、内容について「面白いもの、楽しいもの」の要求が多く、また自分たちのとりあげてほしい内容も多くあげられている。学校劇でとりあげられるものが子どもたちに喜ばれているとはいえないことがわかる。舞台をはじめ設備が整った所でしたい、学校外でしたい、など、実際学校の設備の不備もあろうが、学校劇の制約を超えた要求も出されている。子どもたちが自分の役にこだわることは、さきの学校劇で「楽しかった、つまらなかった」の分析でも明らかであったが、自由記述の中でも役についてのことが沢山でてきている。また、観客の態度がわるい、観客の拍手の多少などにも触れている子が多く、学校劇での観劇態度の指導も必要であるといえる。演じ方については、声が小さいというのがもっとも多かった。一方、大きい声が出せて気持ちよかったという記述もみられた。観る側のさわがしさなども関係するだろうが、相手に伝える意識をもたずにセリフをいう子もかなり多いものと思われる。

2. 学校劇と教師

1) 学校劇の意義および効果

小学校教師は学校劇に意義を感じているかを知るため学校劇の意義の有無を質問した。教師の男女差、公私立差なく90%が「意義がある」と答えており、「意義がない」とするものは公立に3%みられただけである（表10）。どういう点に意義があるかについて自由記述されたものをまとめてみるとつぎのようになる。

表10 学校劇の意義（教師）

	公立		
	男	女	計
ある	138 (93.2)	181 (88.3)	319 (90.4)
ない	2 (1.4)	9 (4.4)	11 (3.1)
無回答	8 (5.4)	17 (8.3)	25 (7.1)
計	148 (100)	205 (100)	353 (100)
	私立		
	男	女	計
ある	15 (88.2)	2 (100)	17 (89.5)
ない	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	2 (11.8)	0 (0)	2 (10.5)
計	17 (100)	2 (100)	19 (100)

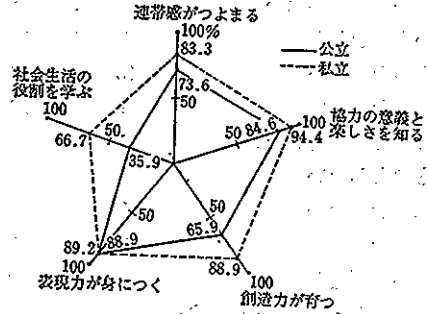
〈学校劇の意義〉

- |                           |       |
|---------------------------|-------|
| ①子どもの表現力を育てる              | (105) |
| ②創造性をのばす                  | (55)  |
| ③協調・協力することを学ぶ             | (55)  |
| ④人間を豊かにする、感動を与える、情操教育となる  | (42)  |
| ⑤一つのことを創りあげる充実感、満足感を味わわせる | (35)  |
| ⑥連帯感、友だち関係を高める            | (32)  |
| ⑦自主性・積極性を育てる、自信をつけさせる     | (26)  |
| ⑧子どものかくれた面を発見できる          | (21)  |
| ⑨人生経験、間接経験を通して生き方を学んでいく   | (16)  |
| ⑩自己発現、自己表現、心的解放の場である      | (16)  |
| ⑪国語教育、話し方や言語発達に役立つ        | (15)  |
| ⑫総合教育(他教科・音楽・国語、道德の関連深まる) | (11)  |
| ⑬社会のさまざまな現象、役割を学ぶ         | (5)   |
| ⑭子どもの個性、特性が発揮できる          | (5)   |
| ⑮責任感、努力心を育てる              | (4)   |
| ⑯質の高い文化に接する機会を与える         | (3)   |
| ⑰観賞力を育てる、観賞態度を学ぶ          | (2)   |
| ⑱演劇の理解、脚本への関心を高める         | (2)   |
| ⑲人格形成上必要である               | (2)   |
| ⑳相手への思いやりを育てる             | (2)   |
| ㉑子どもを変革できる                | (2)   |
| ㉒肌で感じとらせることができる           | (1)   |
| ㉓視覚で物をとらえさせることができる        | (1)   |
| ㉔他学校から学びとるものも多い           | (1)   |
| ㉕発表会を機にして地域との結びつきができる     | (1)   |
| ㉖教師自身が楽しい                 | (1)   |

以上のように、さまざまな角度から、学校劇の意義があげられ、教師たちの学校劇に対する考え方をうかがうことができる。

つぎに、学校劇の効果について、①連帯感が強まる、②協力の意義と楽しさを知る、③創造力が育つ、④表現力(身体・言語)が身につく、⑤社会生活の役割を学ぶの5項目について「効果がある」「どちらともいえない」「効果がない」の三段階評定をもらった。各項について、「効果がある」との答えを得たものを%で示したのが図7である。男子教師、女子教師の間に有意の差はみられないので、公私立別を示した。「表現力が身につく」は89%前後で公私の差はみられないが、「連帯感」「協力の意義と楽しさ」は10%、「創造力」23%、「社会生

図7 学校劇の効果



活の役割」31%と私立の方が効果があるとするものが多くなっている。つぎに、効果があるとする順位をあげてみる。

公立

- |                  |         |
|------------------|---------|
| ①表現力(身体・言語)が身につく | (89.2%) |
| ②協力の意義と楽しさを知る    | (84.6%) |
| ③連帯感が強まる         | (73.6%) |
| ④創造力が育つ          | (65.9%) |
| ⑤社会生活の役割を学ぶ      | (35.9%) |

私立

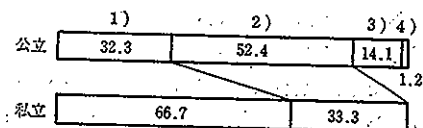
- |                  |         |
|------------------|---------|
| ①協力の意義と楽しさを知る    | (94.4%) |
| ②創造力が育つ          | (88.9%) |
| ③表現力(身体・言語)が身につく | (88.9%) |
| ④連帯感が強まる         | (83.3%) |
| ⑤社会生活の役割を学ぶ      | (66.7%) |

学校劇の効果の1位は私立では「協力の意義と楽しさを知る」であり、公立では「表現力が身につく」である。第5位は公私立ともに「社会生活の役割を知る」になっているが、全般に、私立の方が学校劇の効果をと高く評価していることがわかる。

2) 子どもたちの学校劇へのかかわり方

教師からみて、子どもたちが学校劇をどううけとめているかを5つの選択肢によって答えてもらった(附2参照)。なお、「5)迷惑に思っている子が大部分である」は公立の男子教師に1名なので「4)楽しむ子はごく一部で

図8 子どもたちの学校劇へのかかわり方



- 1) 楽しんで積極的に参加する子が大部分である。
- 2) 楽しんで積極的に参加する子が多い。
- 3) 楽しむ子といやがる子が半分ぐらいつける。
- 4) 楽しむ子はごく一部である。



ある」に含めた。男子教師と女子教師に差がみられないので、男女計で公立と私立を比較してみる。つぎの図8にみるように、私立の方が子どもたちが楽しんで積極的に学校劇に参加しているのが明らかである。つまり、私立では、1)楽しんで積極的に参加する子が大部分である66.7%と2)楽しんで積極的に参加する子の方が多い33.3%で占められており、3)楽しむ子といやがる子が半分くらい、4)楽しむ子はごく一部は皆無である。

3) 学校劇を行うばあいの問題点

学校劇を行う場合、特に感ずる問題点として選択肢14を用意し、3個以内のチェックによる回答をえた。この結果は表11のようになる。なお、男子教師と女子教師間には差がみられなかったので男女計で公私立別をみることにした。

表11 学校劇実施上の問題点 ※P<.05

	公立	私立
	N=353	N=19
※(1)参加する子としない子ができる	31.7	5.3
※(2)役に不満をもつ子ができる	16.7	42.1
(3)出演することを負担に感ずる子がい	5.9	0
※(4)指導のしかたがよくわからない	19.5	0
※(5)時間が足りない	57.5	26.3
(6)他の授業にさしきわる	29.2	26.3
(7)他の教師の演劇への理解がなく協力が得られない	1.7	0
※(8)設備がよくない	17.0	0
(9)適当な脚本が手に入りにくい	33.7	15.8
(10)とり上げたいと思うすぐれた脚本がない	15.6	0
(11)予算が足りない	4.8	5.3
(12)わが子の出演について親が不満をも	6.8	0
(13)親の演劇への理解がなく協力が得ら	1.1	5.3
(14)その他	6.9	13.3

私立では「学校劇の意義を認めているので問題はない」などの自由記述もあり、公立より問題を感じるものが少なくなっている。両者に有意差(5%危険率)のあるものは、「役に不満をもつ子ができる」が私立の方が多く、その他「参加する子としない子ができる」「指導のしかたがよくわからない」「時間が足りない」「設備がよくない」はすべて公立の方が多くなっている。公立小ではその他の項に「クラス全員参加のむずかしさ」があげられている。全員参加の劇の構成に苦勞する、舞台の上の子どもの指導と出番を待つ子のさわぎをおさめることが同時にできない、全員参加の劇では劇そのものが見えなくなるなどである。また、国語教科の中に脚本指導が位置づけられているが、表現の時間として週一時間ぐらいほしい、日常の教育活動とつながりが得られな

い。学校劇にすべての教師が情熱をもつとは限らない。負担を感ずる教師もいる。学校劇に意欲のない子、恐怖心をもつ子がいるなど、具体的な問題があげられている。

4) 学校劇とのかかわり方

現在、学校劇とどのようなかかわり方をしているかを質問した。その結果は表12にみるように、(1)直接指導する、(2)子どもと話し合いながらの指導が多い。私立はそれぞれ約60%、公立は(1)39%、(2)48%である。公立では、(4)すべて子どもにまかせ環境設定に手をかすが、1%弱、(3)殆んど子どもにまかせ相談にのってやる程度が1%強となっている。その他には、大道具、小道具づくりを手伝う、音楽効果のみ手伝う、専科のため必要などきだけ手伝うなどの答えであった。

表12 現在学校劇とのかかわり

	公立		
	男	女	計
(1)	53 (38.8)	85 (41.5)	138 (39.1)
(2)	70 (47.3)	101 (49.3)	171 (48.4)
(3)	2 (1.4)	3 (1.5)	5 (1.4)
(4)	4 (2.7)	1 (0.5)	3 (0.8)
(5)	32 (21.6)	44 (21.5)	77 (21.8)
無 答 其 他	4 (2.7)	7 (3.4)	11 (3.1)
	4 (2.7)	4 (2.0)	8 (2.3)
計	148	205	353

	私立		
	男	女	計
(1)	10 (58.8)	1 (50.0)	11 (57.9)
(2)	11 (64.7)	0 (0.0)	11 (57.9)
(3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
(4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
(5)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (5.3)
無 答 其 他	1 (5.9)	0 (0.0)	1 (5.3)
	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	17	2 (100)	19

- (1) 実際に直接指導する。
- (2) 子どもと話し合いながら行なう。
- (3) ほとんど子どもにまかせ相談にのってやる程度。
- (4) すべて子どもにまかせ、ただ資金援助、会場確保など環境設定をしてやる。
- (5) 現在、学校劇とは全くかかわりをもっていない。

III 総括および考察

従来、学校劇の研究は個々の実践例の報告にとどまり学校劇そのものに対する調査は行われていない。ここでは、東京都の一地区全体を対象として、教師および学童(小学4年)の意識調査を行った。他に演劇教育の伝統をもつ成城学園小学部を対象としてとりあげた。この結果を総括するとつぎのようになる。

(1) 学校劇の経験は公立90%強、成城99%であり、現在の小学生の殆んどは学校劇に参加している。転校、病欠の他に、セリフを覚えられない、人前に出たくないものが参加していない。また、「選ばれなかった」「ジャンケンに負けた」と子ども自身の意志に反して参加を出来なかったものもある。学校劇を楽しい経験と受けとめる子は、男女別では女子が多く、(男58.8%, 女74.4%) 公私立別では私立(成城)の方が多い(公立66.5%, 私立84.2%)。「楽しい」の理由には、「主役・いい役だった」「皆と一緒に協力できた」「いい劇だった」などがあげられる。自分の役に対しては、「つまらなかった」理由にも一番多く、子どもたちの役に対するこだわりがみられる。成城における学年差をみると、3年生は自分自身の出演、学年が進むにつれクラス全体や劇の内容に関心を示し、その発達をみる事ができる。

(2) 子どものおもしろ劇は男女差が著しく、公私立差も大きい。こわい劇、勇ましい劇は男子に多く、愉快な劇、かわいそうな劇は女子の方が多い。公立と私立ではこわい劇は公立、こっけいな劇は私立に多い。劇の内容では男子はSFもの、怪獣もの、冒険もの、女子はおとぎ話、昔話、世界名作ものを好んでいる。公私立でみると、私立は創作ものを好み、公立は昔話、おとぎ話、世界名作をより多く好んでいる。また、怪獣もの、SFものも公立に多くなっている。劇の形式からみると、女子は音楽や踊りのあるものを好み、男子とのちがいが明らかである。私立は音楽劇、狂言・歌舞伎ふうの劇の好みが公立より多く差が出ている。

(3) 学校劇に全員参加するのをよしとするものは約60%で、どちらでもよいが30%弱である。私立では全員参加肯定のもの80%弱と多くなっている。参加のしかたは「主役でなくても劇に出たい」が公立44%, 私立57%、「主役で出たい」が公立23%, 私立27%となっている。演ずるより観る方がよいというものは女子より男子に多い(16%)が、私立では皆無である。

(4) 学校劇に対する不満は、「観る人の態度がわるい」が1位で半ば以上を占め、観劇指導が一般におろそかにされていることが、問題といえる。つぎに「一部の人が出られない」「内容がつまらない」「先生の指導が多すぎる」の順にあげられている。先生に対する要望としては、「自分たちにまかせてもらいたい」が、12.9%に対して、「もっと教えてもらいたい」28.4%、「困ったときだけ教えてもらいたい」31.2%であり、小学生が先生に依存的であることを示している。学校劇全般について子どもたちは劇の内容に要求が多く、「面白いもの」「楽しいもの」をのぞんでいる。学校でとりあげられて

いる劇が子どもたちの心情とかみあっていないのではないだろうか。また、多くの子どもたちが「もっと沢山劇をしたい」といっており、子どもたちの学校劇への志向の強さと同時に現在の学校ではこれを十分満たしていないことがわかる。

(5) 教師の殆んど(90%)は、学校劇の意義を感じており、「子どもの表現力、創造性をのばし、協力の意義と楽しさを体得させられる、また、総合的教育となる」と評価している。成城学園では、公立よりも高く学校劇を評価しており、表現力や創造性よりも協力して創りあげることの意義を重視している。学校劇に対する意義、意見、問題点などすべてにおいて、男子教師と女子教師のあいだに有意の差はみられない。

(6) 教師が現在の学校劇についての問題として、時間が足りない(58%)、適当な脚本がない50%(手に入らない34%、すぐれた脚本がない16%)、参加する子としない子ができる(32%)が上位にあげられているが、成城学園ではこれらの問題は解消されている。公立では、この他に、他の授業にさしきわ(29%)、指導のしかたがよくわからない(20%)、設備がよくない(17%)、役に不満をもつ子ができる(17%)があげられている。教師自身学校劇の意義を十分認めながらも、現実には思うように実施できない現状であるといえることができる。

#### IV 結 び

演劇教育は集団的な創造活動、言語、身体による表現活動を通して全人間的教育を行うものである。現代の子どもたちは受験に追われ、能力主義、競争社会のなかで人間的な豊かさが失われており、無感動で無気力な子どもが多くなっている。こうした状況の中で演劇教育の重要性は見直され、関心も強まってきている。学習指導要領に「ゆとりの時間」がくみこまれ、多くの小学校がこれを演劇教育に費している。今回の調査でも学校劇の行われていないところは皆無であった。しかし、子どもたちがより多く劇活動をしたいとのぞんでいるにもかかわらず、現状でも時間的制約があって思うように指導できないことが明らかにされた。また、子どもたちが全員参加したがっており、全員参加の劇は劇の構成として盛りあがり欠けるが、できるだけ参加させたい、ところがこれに見あう適当な脚本がない——こうした問題が出されている。学校劇が日常的にくみこまれることによってこれらの問題は解消すると思われる。つまり、少人数出演の劇でも回数多くしてクラス全員に体験させることである。それとともに、観客としての観劇指導にも重点をおくことで観ることの参加意識も高める必要がある

う。現在の国語、あるいは社会などの一つの教科の中で……十分に演劇活動はできないのではないだろうか。さらに、教師自身演劇教育の意義を感じながらも、演劇指導が適切にできない悩みもあげられている。演劇教育が、音楽教育や美術教育のように教育の中に定着していないところに問題があると思われる。

調査に協力いただいた豊島区立小学校の先生方、小学4年の生徒の方、ならびに成城学園の先生と生徒の方が本調査に感謝いたします。本研究は朝日生命厚生事業団の研究助成金をうけたものであり、ここに厚く感謝の意を表します。

附1

学校げきについてのアンケート（児童用）

小学校 \_\_\_\_\_ 年 男・女

学校げきについて、あなたの思っていることをありのままかいてください。

答えかた 1. 答えがいくつかあるときは、あてはまるものに○印をしてください。  
2. ( ) のところはできるだけわしく書いてください。

1. あなたは学校でげきをしたことがありますか。

1) ある→	(1)楽しかった (なぜですか)
	(2)つまらなかった (なぜですか)
	(3)どちらでもない (なぜですか)
2) ない→	(なぜですか)

2. あなたの学校の学芸会や文化祭で、げきをみたことがありますか。

1) ある→	(1)楽しかった (なぜですか)
	(2)つまらなかった (なぜですか)
	(3)どちらでもない (なぜですか)
2) ない	

3. 学校でげきはやった方がいいと思いますか。

1) やった方がいい	(なぜですか)
2) やらない方がいい	(なぜですか)
3) どちらでもいい	(なぜですか)

4. どんなげきが好きですか。○印を五つ以内つけてください。

- (1) 勇ましいげき
- (2) かわいそうなげき
- (3) こっけいなげき
- (4) こわいげき
- (5) ゆかいなげき
- (6) おとぎばなしもの
- (7) 昔ばなしもの
- (8) 歴史もの
- (9) 現代もの
- (10) 世界名作もの
- (11) 冒険もの
- (12) SFもの
- (13) 怪獣もの
- (14) 自分たちの学校生活もの
- (15) 自分たちの家庭生活もの
- (16) 歌やおどりのあるげき
- (17) ことばのないげき
- (18) 人形げき
- (19) 動物になってやるげき
- (20) かげ絵げき
- (21) 狂言歌舞伎ふうのげき
- (22) 音楽のたくさんあるげき
- (23) 放送げき

5. クラス全員が参加できるげきがいいですか。

- 1) はい 理由ですか
- 2) いいえ 理由ですか
- 3) どちらでもいい

6. あなたは学校でやるげきに参加したいですか。

- 1) 主役になってたい
- 2) 主役でなくてもげきにでたい
- 3) 舞台装置や照明などで参加したい
- 4) 舞台にでるよりみる方がいい
- 5) 参加したくない 理由ですか
- 6) わからない

7. 学校でやるげきについて不満がありますか。○印を三つ以内つけてください。

- (1) 一部のしかでられない。
- (2) クラス全員が出演する。
- (3) 内容がつまらない。
- (4) 演技がうまくない。
- (5) 設備がよくない。
- (6) げきをみる人たちのたいどが悪い。
- (7) 先生の指導が多すぎる。
- (8) 先生の指導が足りない。
- (9) その他( )

1) ある →

2) ない

8. 学校でげきをやるときに、先生にしてもらいたいことがありますか。

- (1) もっとげきのやり方を教えてもらいたい。
- (2) 自分たちにまかせてもらいたい。
- (3) 困ったときだけ教えてもらいたい。
- (4) もっと時間をかけてもらいたい。
- (5) その他( )

1) ある →

2) ない

9. その他学校げきについて思ったことを書いてください。

学校劇についてのアンケート (教師用)

お願い この調査は小学校で学校劇がどのように行なわれているかを知るための実態調査です。今後のよりよい学校劇のあり方を考えていくための資料にさせて頂きたいと思っております。調査回答の取り扱いにつきましては、どこの学校がどのような回答をなさったか等の公表は致しませんので、ありのままをご記入ください。

お忙しいところ大変ご迷惑とは存じますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、現在受け持っているいらっしゃる子どもたちについてお答えください。

日本総合教育研究所 児童文化財研究会

責任者 高橋 穂 昭

記入者年齢(歳)男・女 \_\_\_\_\_ 小学校 第 \_\_\_\_\_ 学年担任

1. 学校劇の意義についておきかせください。

- 1) 意義がある ( どういう点ですか )
- 2) 意義がない ( その理由は何ですか。 )

2. 学校劇は子どもにどのような効果があると思われますか。下記についてそれぞれ3段階評定をしてください。

	効果がない	どちらとも いえない	効果がある
	-1	0	+1
連帯感が強まる	_____		
協力の意義と楽しさを知る	_____		
創造力が育つ	_____		
表現力(身体・言語)が身につく	_____		
社会生活の役割を学ぶ	_____		

3. 学校劇を子どもたちはどのようにうけとめていますか。

- 1) 楽しんで積極的に参加する子が大部分である。
- 2) 楽しんで積極的に参加する子が多い。
- 3) 楽しむ子といやがる子が半分ぐらいずついる。
- 4) 楽しむ子はごく一部分である。
- 5) 迷惑に思っている子が大部分である。

4. 学校劇を行なう場合、特に感ずる問題点は何ですか。○印を三つ以内つけてください。

- 1) 参加する子としない子ができる。
- 2) 役に不満をもつ子ができる。
- 3) 出演することを負担に感ずる子がいる。
- 4) 指導のしかたがよくわからない。
- 5) 時間が足りない。
- 6) 他の授業にさしきわる。
- 7) 他の教師の演劇への理解がなく協力が得られない。
- 8) 設備がよくない。
- 9) 適当な脚本が手に入りにくい。
- 10) とり上げたいと思うすぐれた脚本がない。
- 11) 予算が足りない。
- 12) わが子の出演について親が不満をもつ。
- 13) 親の演劇への理解がなく協力が得られない。
- 14) その他 ( )

5. 現在、学校劇にどのようなかわり方をしているのでしょうか。

- 1) 実際に直接指導する。
- 2) 子どもと話しあいながら行なう。
- 3) ほとんど子どもにまかせ相談にのってやる程度。
- 4) すべて子どもにまかせ、ただ資金援助、会場確保などの環境設定をしてやる。
- 5) 現在、学校劇とは全くかわりをもっていない。

(S) CONFIDENTIAL

1. [Illegible]

2. [Illegible]

3. [Illegible]

4. [Illegible]

5. [Illegible]

6. [Illegible]

7. [Illegible]

8. [Illegible]

9. [Illegible]

10. [Illegible]

11. [Illegible]

12. [Illegible]

13. [Illegible]

14. [Illegible]

15. [Illegible]

16. [Illegible]

17. [Illegible]

18. [Illegible]

19. [Illegible]

20. [Illegible]

21. [Illegible]

22. [Illegible]

23. [Illegible]

24. [Illegible]

25. [Illegible]

26. [Illegible]